

安田町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和4年度)

安田町基礎データ

合併状況: 昭和18年に2村が合併
人口: 2,410人(令和4年12月末現在)
面積: 52.36平方キロメートル

安田町における主な公共交通概要

○ 鉄道・軌道

土佐くろしお鉄道 ごめん・なはり線
(町内に安田駅と唐浜駅)

○ 路線バス

(幹線) 高知東部交通バス

- ・安芸を起点とし、安田町内の国道を經由する民間事業路線(安芸-ジオパーク線)
- ・安芸を起点とし、安田町内の県道を經由する民間事業路線(安芸-安田-馬路-魚梁瀬線)

○ コミュニティバス 安田町コミュニティバス「やすら号」

- ・安田町内各方面と田野町内を運行
- ・路線定期運行2路線と、区域運行2路線をそれぞれ運行曜日を限定して運行している。

【路線定期運行】

- ① 東島線: 火曜
- ② 東谷線: 木曜

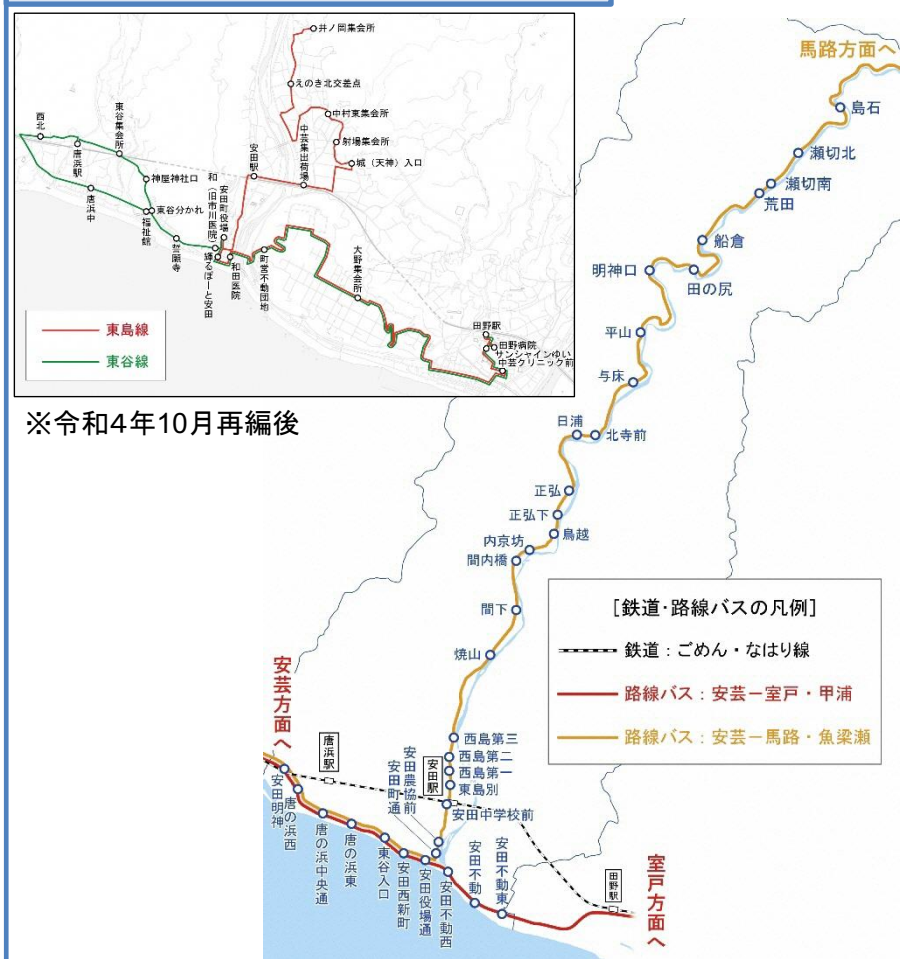
【区域運行】

- ③ 中里線: 月曜・木曜
- ④ 中ノ川線: 金曜

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

安田町の公共交通ネットワーク図



安田町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和4年度)

協議会の構成員

高知県、安田町、土佐くろしお鉄道、高知東部交通、安田ハイヤー、中野ハイヤー、高知県安芸土木事務所、安芸警察署、四国運輸局、高知運輸支局、各地区代表、安田小中学校PTA、安田町社会福祉協議会、中芸地区商工会

前年度の事業評価における課題

- ・コミュニティバスの利用が低迷している地区(特に区域運行の路線沿線)における周知
- ・コロナ禍に対応した情報発信
- ・コミュニティバス及び町内乗り放題サービス「らく賃おでかけデスカ」の利用促進、周知

定量的な目標・効果

(目標)

- ①町内の公共交通利用者数が1日平均:102.49人を下回らない
- ②町内在住者が所持するICカードですがが120人となる
- ③中心部施設の利用者数が108,176人を下回らない
- ④観光ミニツアーの参加者数が前年比20%ずつ増加する

(効果)

- ・新しい移動手段の整備を通じて、公共交通空白地区に暮らしている独自の移動手段を持たない人であっても、自分の意思で外出できるようになり、いきがいを感じながら住み慣れた場所での生活を続けることができる。
- ・近隣の自治体間を行き来することが可能となり、利便性を感じながら生活を維持できるほか、町民同士の交流、町外との交流人口の拡大など地域の活性化にもつながる。

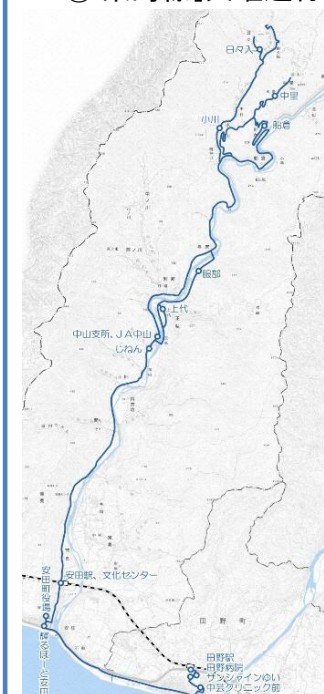
フィーダー系統図

※令和4年10月再編後

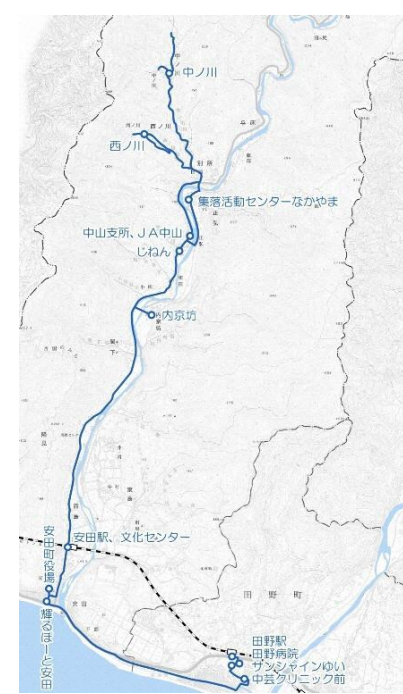


① 東島線[火曜運行]

② 東谷線[木曜運行]



③ 中里線[月曜・木曜運行]



④ 中ノ川線[金曜運行]

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・令和3年10月にコミュニティバス車内で、運行曜日・ダイヤ・経路等に関して利用者ヒアリングを行った。
- ・令和4年1月及び3月に、区域運行路線沿線地区にて戸別訪問と利用を呼びかけるチラシのポスティングを行い、“やすら号”の知及び利用促進を行った。
- ・これまでのアンケート調査や利用者ヒアリング等を通じて、特に要望の多かった、田野町内での滞在時間の延長を実現するため、運行ダイヤの見直しを実施した。また、これに伴い、9月に路線定期運行路線が運行している沿線地区6か所にてダイヤ変更等の周知並びに利用促進につなげる取組を行った。路線バスが運行している沿線地区では、併せて町内バス乗り放題サービス「らく賃おでかけデスカ」の周知も行った。
- ・国道55号沿線バス利用者の安全確保のため、横断歩道の設置について県警と協議を続けてきた結果、唐浜東バス停への設置が決定した。

自己評価

事業実施の適切性

令和4年度は、前年度と比較して利用者数が減少した路線があったものの、堅調に推移している路線もあり、移動手段を持たない町民にとって有効な生活交通手段となっていることがうかがえる。また、アンケートや意見交換会等を複数回開催し、利用者の意見を反映した運行ダイヤの検討を行うことができた(令和4年10月より路線再編実施済)。

今後も地域の生活を守るコミュニティバスとして運行を継続していくために、さらに多くの町民に公共交通を利用してもらうことが必要不可欠であり、そのためには新たな利用者を獲得し、利用者の裾野を広げる取り組みが必要である。今年度は必要と考える地区において説明会(意見交換会)や個別訪問による説明などを行うことができたと考える。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ①町内の公共交通利用者数が1日平均:102.49人を下回らない
昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通の利用者数が減少しており、低い実績値(84.55人/日)となっている。運行2年目となったコミュニティバスにおいては、一部路線で利用者の減少があり、入院等の理由により頻繁に利用していた者の利用がなくなったことが大きく影響していると考えられる。<年間利用者数:1,886人(昨年度:2,083人)>
- ②町内在住のICカードですか所持者が120人となる
令和4年12月27日時点で所持者数は「117人」となっており、目標達成にはならなかったが、イベントでのですか販売出張窓口が所持者数増加に寄与したと考えられる。
- ③中心部施設の利用者数が108,176人を下回らない
対前年比(106.8%)でいうと大きな差異はないものの、目標数を上回ることができた。<令和4年度実績値:118,225人>
- ④観光ミニツアーの参加者数が前年比20%ずつ増加する
令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた観光ミニツアーの実施ができなかった。

今後の事業に向けた改善点

- ・運行2年目になったコミュニティバスについて、路線によっては一定の利用者はいるものの、固定ユーザーがほとんどの状態となっている。区域運行路線をはじめ利用者数の少ない地域については、新規ユーザーの獲得のため、利用体験につながるような説明会や意見交換会、バス乗り方教室等を繰り返し行っていく。また、令和4年度に引き続きコロナ禍に対応した対面を要しない情報発信(町広報誌での広報や各世帯へのポスティング等)の取組も行っていく。
- ・令和3年4月から開始した町内バス乗り放題サービス「らく賃おでかけデスカ」については、まだまだ町民への周知が行き渡っていない状況であるため、コミュニティバスの利用促進同様、周知に力を入れていく。
- ・地区別意見交換会や個別訪問といった地域ニーズを把握する取り組みを通じて、利用者がさらに利用しやすい運行のかたちに反映を行っていく。また、意見交換を通じて、高齢になり車の運転に自信をなくしつつあるものの、車しか移動手段がないという思いが強い高齢者が多いことがわかった。このような人たちへの「まずは余裕のある時でいいので、公共交通を使ってみましょう」というスタンスによる丁寧な利用促進と啓発に取り組んでいく。
- ・県東部地域の拠点でもある安芸市方面(田野町とは逆方向)には、「安田役場通バス停(輝るぽーと安田)」にて安芸市方面行きの路線バス(国庫補助対象幹線系統)とダイヤ接続させ、乗り換え利用が可能となるようにしている。しかし、町民の多くは田野町への買い物や通院を主な移動目的としているため、乗り換え無く田野町まで移動できる「やすら号」が歓迎されているのが現状であり、安芸市方面への利用はまだ少ない状況となっている。この点についても、今後の取組(特に情報発信、地区別説明会、イベントなど)において、ダイヤ接続していることを周知していく。

その他PRポイント

- ・より地域の声を反映し、利便性の向上を図るため、田野町との相互乗り入れを検討している。
- ・コロナ禍に対応した情報発信方法として、新たにポスティングを行った。
- ・これまでのアンケート調査や意見交換会等にて意見の多かった、隣町での買い物時間を確保するダイヤ改正を令和4年10月から行うよう調整ができた。